

# 令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

技術部門	部門
選択科目	
専門とする事項	

●受験番号、技術部門、選択科目、専門とする事項及び問題番号の欄は必ず記入すること。

問題番号	Ⅱ－２－地域公共交通
------	------------

← 解答する問題番号（１又は２）を点線の枠内に必ず記入すること。  
○解答欄の記入は、１マスにつき１文字とすること。なお、英字・数字は１マスに２文字を目安とする。

1. 調査、検討すべき事項とその内容

(1) 上位・関連計画の調査

自治体の総合計画等から、都市の目指す方針を把握する。また、立地適正化計画等の関連計画から都市機能の誘導方針を確認する。これらの計画に位置付けられている都市機能が本事業で誘導できるか検討する。

(2) 区画整理手法の検討

都市計画基礎調査等から、既成市街地での宅地の位置や低未利用地①を把握する。また、インフラ整備状況を把握するため、都市基盤の整備状況を確認する②。これらから、対象区域に適する集約換地や敷地整序型土地区画整備事業等の区画整理手法を検討する。

① 低未利用地は何を把握するのですか。宅地と同じなら、「や」の位置がおかしいですね。→「既成市街地での宅地や低未利用地の位置を把握する。」

② 前段と後段は同じことを述べています。

(3) 権利関係の把握

事業の対象となりうるエリアでの、空き家や空き地等の権利者を確認する。また、土地の登記情報から土地所有者の数や登記簿の状況を把握する③。これらの情報を基に、所有者不明土地の有無や位置④を確認する。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

- ③ 登記情報から登記簿の状況を把握とはいったいどのような行動なのでしょう。手段と結果が同じに見えます。登記簿の状況とは何か（面積、所有権以外の権利など）を明確にしましょう。
- ④ 登記情報を確認する段階では、その位置は把握されているのではありませんか。また、見出しは、権利関係の把握になっています。

## 2. 業務を進める手順と留意点、工夫点

### ① 課題の整理

調査結果を基に、土地区画整理事業を進める上での課題を整理する。整理にあたっては、地図上に課題点をプロットする等の見える化を行い、整理がスムーズにできるよう工夫する⑤。

- ⑤ 「整理にあたっては、・・・整理がスムーズにできるよう工夫する」との表現ですが、整理にあたってはと言っているので、整理は不要です。しかし、そうすると何をスムーズにするのかとなってしまいます。これは、整理という行動がどのような行動なのかがはっきりしないためです。地図上のプロットそのものが整理しているとも言えます。これらを踏まえると、見える化の効果が適切に説明できていないことが原因だと考えます。見える化は、課題と場所の関係性を明確にする目的ですかね。それでも、場所との関係性を明確にして何を得ようとしているのかも分かりません。やはり、工夫点については、要再考ですね。

### ② 施工区域及び誘導施設整備区の設定

土地区画整理事業の施行区域や誘導施設整備区を設定する。設定に際しては、移転補償物件は必要不可欠な物件のみを対象とする等、事業区域を最小限となるような工夫を行う⑥。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

⑥ 構文がおかしいです。また、工夫というより留意点ではないでしょうか。→「最小限の事業区域となるよう留意する」

③ 目指すべき都市の方針の検討

前述の課題や上位・関連計画を踏まえ、土地区画整理事業を通じた目指すべき都市の方針⑦を検討する。

⑦ 目指すべき都市の方針は、上位計画に示されているのではありませんか。都市というと大風呂敷すぎるので、ここでは「土地利用・誘導施設の方針」程度のレベル感で良いのではないのでしょうか。

④ 地元との合意形成及び施策の立案

まちづくりの方針⑧や事業に内容について、地元との合意形成を図り、土地区画整理事業の手法⑨を決定する。⑩

⑧ 都市の方針？ゆれてますね。同じ意味なら、統一しないと混乱を招きます。

⑨ 事業手法の決定プロセスは、地元との合意形成だけなのはいささか説明不足に感じます。

⑩ ここにこそ、合意形成を円滑化する方法として「見える化」を提案すべきではないでしょうか。

⑤ 実施主体の選定

土地区画整理事業の実施主体を設定する⑪。民間開発の機運が高まっている場合は、一体的整備を検討する等、地域の実情に合わせた事業となるよう留意する。

⑪ 主体は、手法とセットではありませんか。

⑥ 費用便益の分析及びスケジュールの設定

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

社会経済的な側面から事業の妥当性を評価するため、地価関数等を用いて費用便益分析を行う<sup>⑫</sup>。また、実施までのスケジュールを設定する。空洞化が進行する市街地等の地域特性を考慮する場合は、地価関数に公共施設までの距離を変数に加える等の工夫を行う。

<sup>⑫</sup> 主体が誰だか分かりませんが、社会経済的な妥当性を評価するのはなぜですか。小さな区画整理は、スポンジ化対策や誘導施設整備が目的であり、社会的意義を判断する必要があるのでしょうか。そもそも、公共施設投資がない場合もありますし、事業計画上の均衡がとれてればよいような気がします。いずれにせよ、費用便益分析を行う目的が釈然としません。

### 3. 調整方策

関係者との調整は、客観的な情報に基づき実施する。小規模な土地区画整理事業では、都市計画決定を必要としないことから、住民に対しては、<sup>⑬</sup>住民に対しては、一方的な情報提供ではなく、懇談会やワークショップを通じて双方向かつ具体的に調整する。以上

<sup>⑬</sup> 不要。また、地元、住民と表現がゆれています。⑧のとおり、統一しましょう。